

組織目標評価報告書(平成30年度)

17-2

部局名: 大学院医歯薬学総合研究科 歯学系

部局長名: 浅海 淳一

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標 1) 大学院生のニーズの多様化と融合型教育に対応するよう一般コースと臨床専門医コースを中心とする履修コースを充実させる。 2) 基礎系・臨床系分野が、協力し歯学系独自の融合型の研究と教育を推進する。 3) 国内外での研究成果報告を推進する。 4) 学生を支援する資金に応募し、学生確保を推進する。 5) 留学生の増加に対応して(、必要に応じて)、授業の英語化を進める。 6) 交流協定を結んだ大学等から優秀な大学院生の留学を促進すべく、国際交流事業を推進する。	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 1) ●大学院履修コースを充実し、英語授業シリーズを整備し、また、大学院(一般コース、臨床専門医コース)の説明会を研修医や臨床実習生に向けて開催している。 ●研究方法論基礎・応用においては、すべてを英語で行うMedical Science Seriesに加えて、半数の授業で英語のスライドを用いた授業を行い、外国人留学生対策を進めた。 ●EPOKの英語授業「ライフサイエンス入門」を、医学系、歯学系、薬学系の英語が堪能な教員が対応して開講し、外国人留学生向けの大学院講義としている。 ●短期留学生の増加に伴い歯学部で開講している「ODAPUS for Foreign Students 英語授業シリーズ」を大学院の留学生対象の大学院講義として開講することを準備している 2) 3) ●歯科のみならず医科の基礎分野、臨床分野と共同研究を展開し、論文報告も盛んに行っている。 ●ARCOCSセミナーは毎月1回計12回、BioForumを年3回開催し、分野を超えた、学外との共同研究の活性化を図っている。スタッフ、運営委員会、業績(英文編集本1冊、英文著書(分担執筆24編、原著54編(内英文48編、総説2編)等、詳細は、ホームページに掲載している(http://www.dent.okayama-u.ac.jp/arcocs/bioforum.html)。) 4) 修士課程でO-NECUSのJASSOに応募し獲得した。 5) ●English lecture series 2019 を行った。 6) ●外国人大学院生の増加に努めた。外国人大学院生の大学との交流協定を締結を進め、さらなる留学生の獲得を目指している。 ●ODAPUSで5~6か月在岡の学生には、研究室で研究指導を行い、将来の大学院生として再来岡を期待し、実績を積ませた。
①-2 年度計画との関連 1) 俯瞰的に優れたグローバル実践人育成を行うこと。 2) 海外機関との教職員交換等の連携を強化し、国際通用性のある医療人を育成する。 3) 海外大学との留学促進制度の推進を図ること。	①-2 大学全体への貢献 1) ●外国人大学院生の増加に努めており、現在20名の外国人博士課程大学院生が在籍している。海外派遣とともに外国人大学院生との共存を進めている。 ●O-NECUSプログラムにより4名を特別聴講学生として受け入れている。 2) ●ベトナム北部有力医療系大学と連携する大学院コースの設置を目指し、国際異分野共同による教育研究を核とする国際社会人共同博士号取得拠点の形成事業においてベトナム・ハノイ医科大学において臨床研究デザインワークショップならびに連携国際シンポジウムを開催した。 3) ●将来の大学院生候補となりうる人材として、ベトナム北部2大学とインドネシア1大学(いずれも協定校)から日本滞在歴がない歯学部教員合計7名をJSTさくらサイエンスプランにて10日間招聘し、共同研究事業を行った。
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標 1) 大学院生の充足率 2) 外国人留学生の増加	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 1) ●定員32人 【2018年度】31人:充足率:96.7% 【2019年度】2018年4月入学 20人:充足率:62.5% 2) ●現在外国人大学院生は20人、特別聴講学生は4人で、外国人留学生の獲得に貢献している。
②研究領域	
②-1 目標 1. 研究の実施体制ならびに実施状況 1) 歯学系独自の研究の推進と次世代の研究・教育者の育成のため、歯学系内での基礎研究と臨床研究の橋渡し(トランスレーショナル・リサーチ)の体制を確立し、歯学系融合型研究を推進する。 2) 学際的研究連携を推進するため、医療系部局(医学系・薬学系)あるいは医療部局外も含めての研究交流をさらに活発化させ、新たな研究シーズの発見とその応用に向けた取組を検討し、新しい学際研究を推進する。 3) 臨床研究中核病院事業及び橋渡し研究事業に参画し、積極的に基礎研究及び臨床研究を実施する。 4) 女性研究者の増加を推進する。 5) 外国人研究者受入れ、国際共同研究を推進する。 2. 研究資金の獲得状況 1) 歯学系構成員による文部科学省科学研究費の申請及び採択率を維持しながら同一人による複数種目の申請を目指し、採択率のさらなる向上を図る。さらに共同研究、受託研究、寄付金の受入の増加に努める。	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 1. 1) 2) ●歯学系内での基礎研究と臨床研究の体制の確立を検討し、歯学系融合型研究を推進した。 ●例えば、医学系大野充昭助教を代表者とした次世代研究拠点グループに歯学系教員が複数参画して医療系部局間の研究交流を活発化させ、さらに次世代研究育成グループ「口腔バイオフィルム感染制御を目指した革新的新規低分子化合物の創製」(代表:自然科学研究科 萬代大樹助教)に歯学系の複数の教員が参画するなど医療部局外との研究交流もさらに活発化させた。 3) ●臨床研究中核病院事業及び橋渡し研究事業に参画し、積極的に基礎研究及び臨床研究を実施した。 4) ●女性教員の比率は他部局に比べて高いが、さらに増加させるべく、教員の公募においては男女共同参画を推進していることを明記するなど、人材確保に努めダイバーシティを推進した。 5) ●BioForum、ARCOCSセミナーを開催し、学外・海外研究者を加えて海外との共同研究の促進を図った。 2. 1) ●歯学系構成員による文部科学省科学研究費の継続&新規申請教員率(97.7%)および採択率(歯学系:33.3%、岡山大学病院:37.0%)は高く、特に申請教員率については上限に近くなっている。これらの数値を維持しながら同一人による複数種目の申請を目指し、採択率のさらなる向上を図ることによって研究実施体制等の整備を行う。科学研究費補助金受入状況(採択率:60%)、採択金額:新規(直接経費70,900千円、間接経費21,270千円)、継続(直接経費95,900千円、間接経費28,770千円)。 ●共同研究、受託研究、寄付金の受入の増加に努めた。受託研究11件、9,230千円、共同研究13件、1,443千円、寄付金177件、42,685千円を得た。
②-2 年度計画との関連 1) 戦略的研究力を向上させること。 2) 医歯薬学系の「橋渡し研究」を推進すること。 3) グローバル化対応に向け、組織として研究力を国際水準へ押し上げること。 4) 研究の質の向上を図ること。 5) 外国人を含む多様な人材を集めること。	②-2 大学全体への貢献 1) ●岡山大学における重点研究領域として3研究領域を提案、採択され、戦略的研究力の向上を目指した。 ●基礎系教育研究分野の教授を適正に配置し、研究の主体となる基礎系教育研究分野の研究力向上の基盤を築いた。 2) ●歯学系独自の「橋渡し研究」を推進した。2019年度「橋渡し研究戦力推進プログラム」シーズ申請に10件応募し、4件採択された。 3) 4) この2年間基礎系の教授の交代が多数続いたが、適切に配置出来たことにより、今後さらに研究を推進することが出来、質の向上に繋げることができる。今後臨床系の教授の退職が続くが、基礎系と臨床系の連携を進めることによって大学院生等の受入にも支障がないようにできる体制を整えた。 5) ●現在外国人大学院生は20名、特別聴講学生は4名で、外国人留学生の獲得にも貢献している。 ●外国人教員は現在2名在籍している。

<p>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況 1) 欧文ISI掲載論文数 2) 総被引用度数 3) 1論文当たり相対被引用度数 2. 研究資金の獲得状況 1) 科学研究費補助金受入状況(採択率, 採択金額) 2) 共同研究受入状況(件数, 金額) 3) 受託研究受入状況(件数, 金額) 4) 寄附金受入状況(件数, 金額)</p>	<p>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>1. 1) ●欧文ISI掲載論文数(歯学関係) 全国国立大学歯学部3位(11校中) 2) ●総被引用度数(歯学関連) 全国国立大学歯学部3位 3) ●1論文当たり相対被引用度数 全国国立大学歯学部3位 2. 1) 文部科学省科学研究費の申請及び採択率 ●科学研究費補助金受入状況(採択率:60%)、採択金額:新規(直接経費70,900千円、間接経費21,270千円)、継続(直接経費95,900千円、間接経費28,770千円)。 2) ●共同研究13件、1,443千円 3) ●受託研究11件、9,230千円 4) ●寄附金177件、42,685千円</p>
---	---

③社会貢献(診療を含む)領域

<p>③-1 目標</p> <p>1) 医科との医療連携の推進のため、医療支援歯科治療部やスペシャルニーズ歯科センターの活動を中心として、多職種の医療連携を促進し、人材の育成、教育、研究の充実を進める。 2) 地域の病院歯科等の医療機関と連携し、大学病院のネットワーク化を進めるためのシステムの構築を図り、大学病院を中心とした地域連携を促進することによって中核病院としての機能の充実を図る。 3) 各専門診療科は、患者サービスの向上を図り、より利用される病院を目指す。 4) 外国人臨床修練制度を使用して教育・研修を行い、国際的な人材を育成する。</p>	<p>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1) ●造血幹細胞移植推進拠点病院事業の一環として、造血細胞移植における口腔内管理の人材育成、教育、研究の充実を行った。 ●スペシャルニーズ歯科センターが主体で、「食支援ネットワーク」を定期的に開催し、多職種の医療連携を促進し、人材の育成進めた。 ●「母と子の歯科外来」を設置し、小児関連の医科診療科と連携し、重度の疾患を持つ小児の口腔の健康の維持・増進を図る専門外来を進めた。 ●「第10回歯科・口腔外科インテシブコース」および「高齢者がん患者に対するがん支持療法と地域包括ケア」に関するワークショップを開催した。 2) ●岡オーラルフレイルと健康寿命をテーマとした講演会を開催した。 ●「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービスの推進」事業を行った。 ●「障害児の摂食嚥下障害への対応」の研修会を行った。 ●「在宅重症心身障がい児・者を対象とした訪問歯科診療の実践」の研修会を行った。 ●地域の歯科保健の推進を目指して、口腔の健康と全身の健康との関連などについて情報提供をした。 ●岡山県歯科医師会と一般社団法人口腔がん撲滅委員会の研修事業の「地域で口腔がんを考える」において、口腔がんの早期発見に関するシンポジウムの事業に協力した。 ●岡山県民公開講座(岡山県歯科衛生士会主催)にて「お口の健康を考える 口のかわき・味覚異常から口にできる怖い病気まで」を行った。 ●岡山大学医学部・病院創立150周年事業「健康フェスタ in Okayama」(岡山大学、山陽新聞社など共催)で味覚障害と口の渇き一口の健康から考える一として市民公開講座で講演をした。 ●県内外口腔外科施設の歯科医対象に、第6回岡山大学臨床解剖口腔外科手術手技研修会を行った。 ●国際歯科医療安全機構主催研修会(岡山県歯科医師会共催)を開催した。 3) ●口腔インプラント専門外来を発展させ、歯科診療科が中心となって、平成30年10月に「デンタルインプラントセンター」を設置した。 ●病棟11階VIPルームに設置された歯科診療室の運用をとりまとめ、整備した。 ●海外からの歯科患者をスムーズに受け入れるために、「外国人患者受入歯科ワーキング」で外国人患者受け入れ体制を整備した。 4) ●外国人臨床修練制度で、ミャンマーの歯科医2名、エジプトの歯科医師1名、パキスタンの歯科医師1名を受け入れて教育・研修を行い、国際的な人材育成に努めた。</p>
<p>③-2 年度計画との関連</p> <p>1) 地域の中核医療機関としての使命を果たすこと。 2) 地域医療連携推進法人の実現に向けて、関係諸機関と連携を図ること。 3) 訪問歯科診療に関する教育を充実させること。 4) 国際的な人材育成を行うこと。</p>	<p>③-2 大学全体への貢献</p> <p>1) ●中国・四国広域がんブロン養成コンソーシアムの一環として、「第9回歯科・口腔外科インテシブコース」および「多職種連携でがん患者の食を支援する取り組み」ワークショップを開催した。 ●岡山県歯科医師会及び岡山大学病院との共催で、「いい歯の日」県民公開講座として、認知症をテーマとした講演会を開催した。 2) ●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムのもと確立した、地域医療に根ざした実践的社会連携教育システムを、本学のみならず全国連携10大学に広く浸透させ、当該教育における岡山大学のイニシアチブを全国に示した。 ●岡山歯学会、同窓会との意見交換の結果、リカレント教育のニーズが卒業生の間で高まっていることが明らかになった。このため本年度、教務委員会が発信源となってリカレント教育プログラム企画のためのWGが歯学部内に結成された。現時点ですでに具体的なシステム整備に着手している。 3) 訪問先の再検討等を行い引き続き 訪問歯科診療に関する教育を充実させた。 4) ●本年度も新たにトロント大学をはじめとする海外の数校の大学と新たに協定を結び、協定の更新も数校と果たした。すでに大学間協定は締結されていたが、これまで歯学部間の交流がなかった大学2校と新たに歯学部間の交流を開始した。</p>

<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1) 歯科系外来患者数 2) 歯科系診療報酬請求額総額</p>	<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>1) ●患者のべ総数:平成30年4月～平成31年1月までの外来総患者数は134,855人で、昨年度よりも約2,200人(約1.6%)減少し、診療単価を向上させた。 2) ●診療報酬請求総額:平成30年4月～平成31年1月までの診療総報酬請求額1,358,213千円で、昨年度よりも約7,800千円(約0.6%)増加した。</p>
---	---

④管理運営領域

<p>④-1 目標</p> <p>1) 学部内資源の再配分による教員配置の最適化を進め、部局組織の活性化を図る。 2) 女性教員の採用及び昇進、国内外の優秀な人材や将来性のある人材確保に努めダイバーシティを推進する。 3) 安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底する。 4) 老朽化した歯学部棟改修計画を進める。</p>	<p>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1) ●ここ2年間基礎系の教授の交代が多数続いたが、適切に教員配置出来たことにより、今後さらに研究を推進することが出来、質の向上に繋げることができる。今後臨床系の教授の退職が続くが、基礎系と臨床系の連携を進めることによって大学院生等の受入にも支障がないようにできる体制を整えた。 2) ●女性教員の採用及び昇進、国内外の優秀な人材や将来性のある人材確保に努めダイバーシティを推進した。 3) ●安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。 ●ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図った。 4) 従来の病院部分ワーキングとともに4階以上の歯学部部分改修ワーキングも立ち上げ、コンセプトとともに素案を作成し、構成員を対象に説明会を開催した。文部科学省とのヒアリングでは、高評価を得ている。施設企画課と連携して案をさらに改良中である。</p>
---	---

<p>④-2 年度計画との関連</p> <p>1) 施設設備の整備・活用に関すること。 2) 安全管理に関すること。 3) 法令順守に関すること。</p>	<p>④-2 大学全体への貢献</p> <p>1) ●歯学部棟改修計画案作成に際し、現有施設を全面的に見直し、再配置を計画、共有部分比率の増加とオープンラボの設置も視野に入れた共同利用部分の検討を行い、素案に盛り込んだ。 2) 3) ●安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。 ●ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図った。</p>
<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1) 教員数 2) 女性教員数・外国人教員数 3) 安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加</p>	<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>1) ●教員数は、定員数の範囲内で適切に運用している。 2) 2) ●女性教員数(H31.3.1現在): 118人中29人(24.6%)(病院籍: 38人中11人、研究科: 80人中18人) ●外国人教員数: 2名 3) ●安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図った。</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>教育、研究、社会貢献すべてにおいてよい状況を保っている。教育では、研究方法論基礎・応用において、すべてを英語で行うMedical Science Seriesに加えて、半数の授業で英語のスライドを用いた授業を進める等、英語化を進めている。外国人大学院生は20人、特別聴講学生は4人で、外国人留学生の獲得を推進する体制を整えている。海外においても、ベトナム北部有力医療系大学と連携する大学院コースの設置を目指し、臨床研究デザインワークショップならびに連携国際シンポジウムを開催した。研究では、歯学系内での基礎研究と臨床研究の体制の確立を検討し、歯学系融合型研究を推進、次世代研究拠点グループに歯学系教員が複数参画して医療系部局間の研究交流を活発化させた。さらに次世代研究育成グループ「口腔バイオフィルム感染制御を目指した革新的新規低分子化合物の創製」に歯学系の複数の教員が参画するなど医療部局外との研究交流もさらに活発化させた。文部科学省科学研究費の申請及び採択率において、高い水準を維持した。欧文ISI掲載論文数(歯学関係)、総被引用度数、国際共著率において全国でトップクラスを維持した。世界ランキングで49位を獲得した。社会貢献では、多職種の医療連携を促進し、大学病院を中心とした地域連携を促進することによって中核病院としての機能の充実を図った。管理運営では、人員配置を見直し、再配置を行った。歯学部部分改修では、コンセプトとともに素案を作成し、文部科学省とのヒアリングで、高評価を得た。</p>	